

# 2023年度商社リーグ 代表者引継会議 議事録

日時	2023年7月31日(月)19:30-21:15
会場	ZOOM
出席チーム	下記参照
欠席チーム	なし
議事録	日鉄物産/駒形、川上、竹内

議題	出席者		
1 はじめに	役員会	金田、北川、辻村、浅井、赤司、野間	
2 商社リーグについて	丸紅	安井、佐川	三井物産 菊池
3 主要項目の前年度比較	豊田通商	小池、古川、山本、中川	伊藤忠商事 山田、小坂
4 運営要綱	阪和興業	小松、大森、大山	日鉄物産 駒形、川上、竹内
5 新幹事挨拶	双日	佐藤、河合	住友商事 美馬、小山
6 おわりに	兼松	田村、室屋	JFE商事 小笹、池田、椎原、村井、柴田
1 対応事項	内容		期日/担当
① 商社リーグ参加費の振込	各チームにて参加費18万円の支払いを行う。		8月4日(金)/各チーム
②			
2 決定事項	内容		期日/担当
①			
②			
3 情報共有及び注意喚起事項	内容		期日/担当
① 4Pマインドの周知、徹底	運営要綱、幹事マニュアルを各チームで読み込む。		8月7日(月)/各チーム
②			
4 意見交換及び審議事項	内容		期日/担当
①			
②			
5 講義及びその他	内容		期日/担当
①			
②			

## <内容>

### 議題1 はじめに (役員会/北川)

### 議題2 商社リーグについて

(役員会/北川)

商社リーグロゴ説明

サッカーボール×地球儀 = サッカー×商社マ  
SINCE 1945 = 戦後から続くリーグ



カラー説明

オレンジ = サッカーへの情熱

青 = 商社マンの舞台である地球、世界



基本概念：自主運営

長きにわたって自主運営でリーグを運営してきた。

歴史

約50年ほど続くリーグで、過去20年の戦績は残っている。転換点は2つある。

転換点①：

94年-95年頃は怠慢なリーグ運営がされており、リーグ実施、消化に2年間を要した。96年に金田会長がリーグを刷新した。

転換点②：

20-21年はコロナ禍が直撃し、試合開催が困難となり、参加を辞退するチームもあった。

コアバリュー4P：商社リーグが今後向かっていく道筋を見極めていくうえで、根本に持っておくべき行動指針

Pride: チームを背負って戦うPride

Passion: サッカーに対する熱いPassion

Punctual: 参加者、運営者双方において必要となるPunctual

Professionalism: 参加者立場のみならず運営の立場に立ってリーグに参加するべきという点でのProfessionalism

(役員会/金田)

96年にリーグ運営を刷新し、現行体制の礎を築いた。今利用できているグラウンドの80-100%は金田会長の尽力で手配されている。

本会議の目的は、各チームが1年間コミットするかどうかの意見を問うこと。

双日/中井：長い歴史がある中でProfessionalismに共感をしている。副幹事業務においてもProfessionalismを発揮していきたい。

当時は30チームほどあったが、今は減ってきている。

多くのチームがグラウンドを保有しており、常時7-8つを提供されていた。  
 部員数も多く、多額な部費が支給されていた時代でもあった。  
 しかし、バブルが弾けたタイミングでその一時代が終わった。  
 20年にはコロナ禍でグラウンド代の支払がリーグ負担となり、倒産目前まで陥ったが、今は何とか維持している。  
 遊びでいいのであれば、辞めてもらっても構わない。商社リーグに参加するのであれば、責任もって取り組むべきである。  
 過去10年の中で昨年の幹事が一番ひどかった。30分-1時間で読める運営要綱を理解せず、担当業務を全うできていなかった。  
 商社リーグの運営要綱はFCバルセロナ、日本サッカー協会にも参照されている。  
 阪和興業は9月の不可日申請を全て不可日として申請した。その理由は「参加者が集まらない」ため。  
 運営要綱すら目を通していないのは明らかで、やる気がないなら辞めても構わない。

兼松/田村：過去にダブルブッキングしてしまった経緯があり、当時は当事者意識、運営者意識が欠けていた。  
 その教訓を踏まえ、自分がチームを回しているという責任感、商社リーグを運営していくという意識を持っていきたい。  
 阪和/小松：チームを管理できていない悔しさを感じる。自主運営の難しさ、醍醐味を感じる。  
 代表者だけでなく、チーム参加者に対してもその熱量、意義を伝えていきたい。  
 伊藤忠/山田：同じ商社業界において言い訳はできない。そこで真剣勝負ができる醍醐味はある。  
 フットサル大会では迷惑を掛けてしまったが、リーグ戦、カップ戦では存在感を発揮していきたい。

ここ3年間で天下の三菱商事、伊藤忠商事ですら人が集まらなくなってきた。  
 この困難な時期で代表者を担う事を、面倒くさいと思うのか、リーダーシップを発揮するチャンスと捉えるのか、は各幹事次第である。

JFE/池田：商社リーグ3年目になり、副幹事の大変さも実感している。運営者意識を持って取り組んでいきたい。

(役員会/北川)

22年度リーグ結果：一部優勝 伊藤忠商事、二部優勝 JFE商事（入替戦実施も入替えなし）  
 22年度カップ戦結果：優勝 伊藤忠商事、準優勝 阪和興業

勝ち点減点、チーム警告事例に関して、一度も名前が挙がっていないチームは伊藤忠商事、JFE商事。  
 チーム内でのマネジメントが徹底されている証である。

### 議題3 主要項目の前年度比較 (役員会/北川)

	2022年度	2023年度	
参加チーム	11チーム	10チーム (伊藤忠丸紅鉄鋼が辞退)	変更
リーグ戦・カップ戦	通常どおり開催。 リーグ戦：1部5チーム、2部6チームの総当たり戦 カップ戦：1部5チーム、2部上位3チームのトーナメント戦 (コロナ禍やグラウンド状況を踏まえてH&Aとはしない)	通常どおり開催。 リーグ戦：1部5チーム、2部5チームの総当たり戦 カップ戦：1部5チーム、2部上位3チームのトーナメント戦	変更
試合数	35試合 (リーグ戦25試合+カップ戦8試合+入替戦2試合)	30試合 (リーグ戦20試合+カップ戦8試合+入替戦2試合)	変更
リーグ戦開幕	9月(代表者引継会議 8月1日)	9月(代表者引継会議 8月4日)	
オペレーション	従来同様	従来同様	
幹事業務	従来同様	従来同様	
HP運営	現HPを継続活用	現HPを継続活用	
参加費用	18万円/チーム	18万円/チーム	

### 議題4 運営要綱

(役員会/北川)

詳細は新旧対比表を参照。内容自体の変更はなく、より分かりやすくするための文言・表現の修正のみ。  
 特に留意すべきは以下の2点。

- ①チームデータの更新：毎月第一金曜日が受付期限だが、追加登録メンバーが出場できるのは最短で第二土曜日以降であることを明確化。
- ②不戦勝・不戦敗時の審判、MC：当初の予定通りに審判・MCを行うことを明確化（不戦敗チームが同時に両方を担うことは認めない）。

(役員会/金田)

②に関して、役員会内でも「不参加チームに審判・MCを任せるべき」という議論もあったが、運営要綱には「両チームの申し出があればMCが審判を交代して担う」ことが明記されている。  
 公平性、中立性を担保するために、2チームで審判・MCを担当するべきという事で結論づいた。

### 議題5 各チーム挨拶

双日/佐藤：副幹事を務めているので個人としては目を通したが、新人含めチームとして徹底させたい。  
 試合結果集計はリーグ運営の根幹を担うので、前任からの引継ぎを生かしながら全うしていきたい。  
 プレー面では今年こそは二部優勝、一部昇格を狙いたい。  
 住友商事/美馬：主幹事補佐を担うため、商社リーグの基本理念をしっかりと理解したうえで、チームとして携わってきたい。  
 主幹事と連携してリーグ運営に貢献していきたい。  
 豊田通商/中川：今年は参加チームとなるが、メンバーには運営要綱の周知を行っている。  
 昨年は提出物のミスが多く迷惑をかけたので、その反省を生かし今年は漏れなく対応したい。  
 伊藤忠商事/山田：マニュアルには目を通したが、下の代に対して周知徹底していきたい。  
 伊藤忠商事にベナルティがないのは先人たちの礎なので、そこを止めないように尽力していきたい。  
 人線りについても若手中心に参加率を上げていきたい。  
 三井物産/菊池：昨年は罰金対象の事象を2件起こした。今年は再発防止策を徹底したい。  
 プレー面では昨年最下位に終わり不完全燃焼だったが、今年は巻き返しを図ってきたい。

丸紅/佐川：チーム全体で運営要綱を読み込み、ピッチ内外で緊張感をもって取り組んでいきたい。

JFE商事/小笹：副幹事の経験を生かし迷惑を掛けないようにしっかり対応を行っていきたい。

運営要綱の読み込みもチーム内で徹底したい。

兼松/室屋：今年は副幹事を担う。これまでチームデータなどでミスが多かったので、運営要綱、マニュアルの周知をチーム内で徹底したい。

人繰りには苦勞している状況だが、責任もって取りまとめを行っていきたい。

日鉄物産/竹内：今年は副幹事を務め、ML登録、議事録作成を担当する。運営要綱、マニュアルを部内で周知し、リーグへコミットする。

フットサル大会では上々の成績を修められたので、リーグ戦にも繋げていきたい。

阪和興業/小松：運営要綱、マニュアルは担当者だけに留まっているので、チーム内へも展開をしていきたい。

チームの戦力は整っているため、結果にもこだわっていきたい。

(役員会/北川)

各チームからのコメントにより、各チームが商社リーグ運営に協力し且つ運営要綱を遵守することのコミットメントを得た。

(参照：運営要綱4A 商社リーグに参加するにあたり、リーグ運営に全面的に協力するだけでなく、最新の運営要綱を遵守する事をコミットする。)

役員会/野間：試合結果集計のフォローを担当。双日と連携していきたい。

役員会/浅井：去年はミスが多かったため運営要綱を読み込むだけでなく、行動で示して頂きたい。

主幹事フォロー担当のため、主幹事やグラウンド側とうまく連携していきたい。

役員会/赤司：商社リーグは些細なことから瓦解してしまうリスクがある。

各自ご認識いただき、参加側、運営側の双方の視点をもって取り組んでいただきたい。

役員会/辻村：各チームの代表が積み重ねてきたリーグ。参加者がハッピーになれるリーグを作りたい。

役員会/金田：商社リーグの行動指針を個人の行動に落とし込んでほしい。感謝の気持ちを持ってリーグに参加して欲しい。

役員会/北川：この会議の後の行動が非常に大事。チーム内で行動に移していただきたい。

## 議題6 おわりに

以上